

群馬県立文書館

# 文書館だより

TEL 027 (221) 2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp/>

第49号

平成24年3月



散乱する公文書（女川町役場一階）

## 女川町被災文書救済事業の概要 救済文書

宮城県牡鹿郡女川町税務課・町民課文書  
三百三十九冊（復旧後）

### 経緯

- 三月十一日 東日本大震災発生
- 六月一日～二日 第一回被災実態調査（陸前高田市、南三陸町、女川町）
- 六月九日 全国公文書館長会議にて被災公文書等の現状報告
- 六月九日～十一日 第二回調査・現地研修（釜石市、女川町、他）
- 六月十四日～十五日 第三回調査・被災公文書の引取り（女川町、仙台市）
- 六月十六日 文書救済作業開始
- 八月十日 東京文書救援隊の復旧システムを導入、町民課文書の一部洗浄作業を試行
- 八月二十三日～二十五日 第四回被災実態調査（別表の九自治体）
- 九月二十一日 文書救済作業完了
- 九月二十八日～二十九日 復旧文書の返還・第五回調査（女川町、石巻市、旧北上町、旧雄勝町）
- 十月二十七日～二十八日 第三十七回全史料協群馬大会（ポスターセッション）にて活動報告
- 十二月十二日～十六日 平成二十三年度県庁特別展「震災から復興へ」資料に見る災害」開催

# 東日本大震災により 津波被害を受けた 公文書の救済

文書館では、六月十五日から九月二十九日にかけて、東日本大震災の津波により被災した宮城県牡鹿郡女川町の公文書の救済を行った。文書館が実施した救済作業や事前に実施した被災状況調査等を踏まえて、東日本大震災による公文書の被災状況等を紹介する。

## 1 津波被害を受けた自治体庁舎

平成二十三年三月十一日発生した東北地方太平洋沖地震により発生した大津波は、東北地方と関東地方の太平洋沿岸地域に甚大な被害をもたらした。特にリアス式海岸が連なる三陸沿岸一帯の津波被害は著しく、一部には、庁舎自体が津波により被災した自治体がある。

今回の震災は、地震による被害より津波による被害が甚大であった。岩手県陸前高田市の場合、震度は六弱で、地震自体の被害はほとんど見られなかったが、地震発生から約四十分経過後に、海底のヘドロを含んだ灰色をした巨大な水の固まりのような津波により、中心市街地の大部分が壊滅状態となっている。「陸前高田市は瓦礫の海と化し、倒壊した家屋の材木で、海面一帯が覆われていた」と、

市役所での会議中に地震に遭遇し、チリ津波の経験から高台に避難したと元市議会議員は述べていた。

津波被害は、岩手県から宮城県にかけてリアス式海岸地域、仙台平野、福島県の海岸地域の被害が甚大であった。さらに、津波により被災した福島第一原発の事故により被害は一層拡大している。

基礎自治体である市町村は、地域運営の中核である。中核であるべき自治体の中心的存在である自治体庁舎の被災により、庁舎内で使用していた行政文書も同様に被災しており、行政文書がすべて流失した自治体もある。これら自治体の被災概要は次表の通りである。

別表 庁舎が津波被害を受けた自治体の被災概要

自治体名	死者不明者	倒壊家屋数	庁舎の被災状況	被災公文書
岩手県	宮古市	578	1階天井まで水没	一部台帳が水没
	山田町	853	地下1階が天井まで水没	全永年文書が水没
	大槌町	1,501	全壊 (津波は2階屋上を遙かに超える)	全公文書が流失
	釜石市	1,178	本庁舎地下1階が水没、2分庁舎の1階が水没	全永年文書が水没 一部現用文書が流失
	陸前高田市	2,136	全壊(津波は3階天井まで)	現用文書は流失、 但し永年文書は水没
宮城県	気仙沼市	1,413	分庁舎の1階が水没	一部公文書が水没
	南三陸町	986	全壊(津波は3階屋上を超える)	全公文書が流失 旧歌津町公文書流失
	女川町	941	全壊(津波は3階天井まで)	全公文書が流失、 若干の公文書が水没
	石巻市	4,040	本庁舎(1階水没)、2総合庁舎全壊、3分庁舎1階が水没	旧石巻市の全永年文書が水没、 2総合庁舎公文書が流失

注 被災状況の数値は、8月1日現在の岩手県、宮城県の発表数値である。



土台ごと津波により横倒しになったビル(女川町)

## 2 公文書被災状況調査とアメリカアーキビスト協会

「被災して一番困ったことは、執務室と公文書がなかったこと」と、公文書の被災状況調査に協力いただいた南三陸町の職員が述べていた。公文書は、市町村業務の執行には欠くことができない。日常使用している公文書が、大槌町、陸前高田市、南三陸町、女川町では、全て流失してしまい、被災の支援や災害復興にも大きな支障をきたしていた。

業務上支障をきたした事例として、年度末の支払い業務がある。年度末には、調度品の購入、印刷物の発行、公共工事

の完成などに伴い支払い業務が集中するが、支払いが完了していない時点で津波により関係書類が全て流失し、支払先と支払代金さえ確定できない状態であった。また、生活保護や高齢者の健康管理関係の個人データも全て失われ、被災者支援に支障をきたしていた。

被災者の状況や被災地の現況はたびたび報道されていたが、公文書の被災に関する報道は少なく、その実態は知られていなかった。「陸前高田市の歴史が失われてしまう」との友人の言葉を切っ掛けに公文書の被災状況を調査した結果、複数の自治体で公文書が被災していた。その被災状況を把握している機関や組織がなかったため、当文書館では、被災地の公文書の被災状況調査を実施（別表概要のとおり）し、これら事実をマスコミヤ公文書関係機関に広報した。

#### \* 被災状況調査等

第一回目の調査、被災実態調査（陸前高田市、南三陸町、女川町）、六月一日、二日

第二回目の調査、現地研修（釜石市、女川町、他）、六月九日～十一日

第三回目の調査、被災公文書の引取り（女川町、仙台市）、六月十四日、十五日

第四回目の調査、被災実態調査（表にある九自治体）、八月二十三日～二十五

日

第五回目の調査、復旧文書の返還（女川町、旧北上町、旧雄勝町）、九月二十八日、二十九日

#### \* マスコミ等での報道状況

NHKテレビ二回（首都圏ネットワークと全国放送）群馬テレビ二回

新聞の掲載実績（上毛新聞4回、読売新聞2回、朝日、毎日、日本経済新聞各1回）

#### \* 関係機関への広報

全国公文書館長会議に、文書館が作成した公文書被災状況調査結果（陸前高田市、南三陸町、女川町）報告書を提供（六月九日）し、公文書関係機関に公文書の被災状況を広報した。

沖縄県公文書館の協力で英訳された同報告書が、アメリカアキビスト協会の例会で議論され、アメリカからも被災文書の救済作業への支援が行われた。

#### 5 被災公文書の救済作業

六月十五日朝、被災地から文書館に運ばれた公文書が文書館に到着した。書類は、ダンボール箱四十一個分二百五十三冊で、土地台帳と戸籍関係の書類に大別できる。土地台帳は、被災した金庫内に保管されていたため汚れは少なかったが、戸籍関係の書類は、被災した庁舎内の書庫で回収されたためへドロによる汚れが

ひどかった。

文書館で実施した公文書の救済作業の実施手順は以下の通りである。

#### ① バインダー、綴じ糸の取り外し

被災公文書の復旧には、濡れた公文書の乾燥が必要であるが、乾燥作業の前段階としてバインダーや綴じ糸の取り外しを行った。



#### ② キッチンペーパーによる乾燥作業

濡れた文書の上にキッチンペーパーを挟み込み、文書を乾燥させた。



#### ③ 立て置き乾燥

キッチンペーパーによる乾燥作業終了後、段ボールを両脇に当て、公文書の簿冊ごとには綴じたものを床の上に立てて、扇風機の送風により自然乾燥させた。

②の作業と③の作業を十回以上繰り返し返

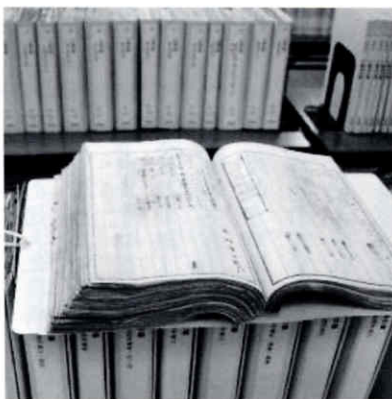
して文書を乾燥させた。



#### ④ 汚れ落とし

土地台帳関係の書類は金庫の中で被災したため汚れは少なかったが、戸籍関係の書類は津波により運ばれたへドロで汚れていたため、刷毛で汚れを落とした。

#### ⑤ 文書の仮製本と目録作成



女川町の希望により乾燥させた文書を仮綴じし、文書目録を作成した。(文書数三百三十九冊)

⑤ 被災公文書の返還



目録を受け取る女川町総務課長

平成二十三年九月二十九日、復旧作業の完了した公文書を女川町役場の届けた。町では、救済された公文書をデジタル化して保管するとともに、今後の復旧作業に役立てたいと話していた。

女川町以外では、釜石市、山田町において、国文学研究資料館が六月から支援を行い。九月には、当館の公文書被災状況調査を切っ掛けに、陸前高田市で法政大学、神奈川県等が救済作業を行い、一月から国立公文書館が、気仙沼市と石巻市で救済方法を指導している。

被災公文書の

救済活動を通して

東日本大震災で被災した女川町役場の公文書救済活動は、六月中旬から九月下旬の三ヶ月余りに及びました。

館内の他の文書と管理の動線を分けるために作業場所は特殊作業室付近に限定し、作業にあたる職員はマスク、薄手のゴム手袋、専用エプロンを着用して作業を行いました。海のない群馬県で津波による被災文書の救済は未知の作業であり、事前に釜石市で現場実習を受けてきた職員のノウハウが唯一の拠り所でした。それでも何度も吸湿紙等を交換し文書が乾いていくのを確認するにつれ、作業が順調に推移している手応えを感じました。

一方、作業の途中段階で咳が止まらなくなる職員が出てしまい、そのような者は作業から外す等、健康管理に注意しながらの作業ともなりました。

当館の救済活動は、全国に先駆けて行ったものですが、予算、人等の制約もあり、ほんの一部の救済にしか過ぎなかったものと思われれます。今回の活動を通し、住民情報や地域情報を掌握している公文書は行政の基本、土台情報であり、安全に保存されることが必要不可欠であることを改めて思い知らされました。

第二十七回 全史料協

全国(群馬)大会開催

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(通称全史料協)の全国大会が、新設された高崎市立中央図書館をメイン会場として、平成二十三年十月二十七日と二十八日の二日間にわたり開催されました。

記念講演では、元内閣総理大臣福田康夫氏より「公文書管理法への思いと期待」と題して約一時間の講演を頂きました。公文書管理法(公文書等の管理に関する法律)は、平成二十年五月の年金記録問題を契機に、当時の福田総理大臣の指示により成立した法律です。



交流会で会員と懇談する福田元総理

福田元総理が国会議員になる前に、ワシントンの国立公文書館を訪れ、B29の爆撃で焼け野原になった前橋の写真を見つけコピーを前橋の知人に提供したこと、切っ掛けに公文書館に対して強い関心を抱き、官房長官時代に公文書館制度の充実という課題に取り組まれたこと、辛亥革命前の孫文と梅谷庄吉と宮崎滔天との交流を示した文書が、「長崎の宝」として梅谷家に保存されているが、今後どのような形で後世に伝えられるか危惧を抱えていることなどを話されました。

大会の主催者である全史料協は、全国の文書館、公文書館、図書館、歴史資料館、自治体史編さん室、および大学資料室とこれらの機関の仕事に携わる方々が連携して、昭和五十一年に結成された組織で、群馬大会は三十七回目の全国大会となります。

大会は「地域社会とともに歩むアーカイブズ—公文書管理時代を迎えて—」をテーマとして、二十七日の初日の研修会の分科会では、「アーカイブズ入門—アーカイブズ像の変化—」、「災害レスキューから見えたこと」、「地方公文書館の立場から見た公文書管理法の意義と課題」、「歴史的公文書等の調査と整理」が開催され、また、国立公文書館の修復担当をお招きして「資料保存ワークショップ」も開催されました。



ワークショップ

さらに、新設された高崎市立中央図書館の視察終了後、会場を高崎シティギャラリーに移し、群馬交響楽団の有志で結成された群馬ブラスクインテットによる復興支援ミニコンサートを開催し、東日本大震災の被災地への支援を呼びかけました。福田元総理の講演終了後、全史料協の総会が開催され、会場をホテルに移し午後六時から交流会が開催されました。交流会には全国から二百名近い方々が参加され、途中から福田元総理も加わり全国からの参加者と意見交換をされていました。



復興支援コンサート

二十八日の全体会では、全史料協東日本大震災臨時委員会活動、東日本大震災被災地からの報告、札幌市公文書館のめざすもの、公文書館機能の自己点検・評価指標の四報告がされ、「めざすべき公文書館機能とは？」をテーマに全体会の討議が行われました。

また、ポスターセッションには、個人会員六人、機関会員七機関が参加し、当文書館では、作成したポスター六点を展示しました。

文書館では、文書館視察(二十六日、二十九日二回開催)と、富岡製糸場視察(二十九日)を関連企画として開催し、百名以上の方々に参加いただきました。

なお、富岡製糸場視察に際しては、富岡製糸場総合研究センター所長今井幹夫氏

に、「富岡製糸場の歴史と文化―世界遺産への道―」の講演を頂きました。

大会参加者、関連企画参加者、交流会参加者を合計すると七百人近い人数となりました。後日、大会に参加いただいた多数の方々から「群馬県ならではの企画」とお褒めの言葉を頂きました。

### 全史料協群馬大会を終えて

求められました。

群馬大会では、公文書を取り巻く新たな時代の幕開けとして、震災による公文書への被害と救済活動の様子、そこから見えてきた公文書の重要性や保存管理に関する課題、公文書管理法の趣旨を地方自治体でどのように踏まえ取り組むべきか等、研修会や研究会を通じて、参加者が議論を深めました。今後、この議論を土台として、改善に向けた実質的な取り組みを進めることが求められています。

また、福田康夫元内閣総理大臣が「公文書管理法に対する期待と思い」と題した講演をしました。「公文書館も国民(住民)の視点を重視したものでなければなりません。」「文書ひとつひとつから史実が読めてくる。しかし、その文書は無くなってしまったら、日本の歴史はその部分についてはそこで途切れてしまう。そのことを考えると、今に生きる人たちは、将来に対して大変な責任を持っている。」等、改めて歴史資料として重要な公文書等の保存の重要性について考えさせられる内容でした。

例年になく多数の参加者を得て、群馬大会を無事終了することができました。ご支援・ご協力そしてご参加をいただいた方々に改めて感謝を申し上げます。

全史料協の全国大会を群馬で開催するのは、二回目でした。一回目は、第八回大会(昭和五十七年)を開館間もない当館で開催しました。それからおよそ三〇年。四月に開館した高崎市立中央図書館・高崎市保健センターをメイン会場とした今回の群馬大会もまた特別な大会となりました。東日本大震災では、数多くの自治体が地震・津波で被災し、人的・物的に甚大な被害を受けました。太平洋沿岸部の自治体では役場庁舎とそこに保管されていた公文書・歴史資料も水損・流失しています。また、四月には公文書管理法が施行され、現用の公文書管理に加え、歴史資料として重要な(保存期限が満了した)文書等についても、適正な管理に努め、現在及び将来の住民に知的資源として提供できるように体制作りが

# 新たに収蔵した 行政文書

管理受任等 平成二十二年度に管理委任及び引継により県の各機関から受け入れた文書は、一、九三〇冊でした。（詳細は表1のとおり）

収集 平成二十二年度の文書整理において県の各機関が廃棄した文書資料中から文書館が歴史資料として収集したものは一、七九四冊でした。（詳細は表2のとおり）

表1  
平成二十二年度管理受任文書の課室別冊数

課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数
学事法制課	54	自然環境課	6	都市計画課	50
消防保安課	125	森林保全課	39	建築住宅課	24
医務課	87	農業経済課	20	同(10年保存文書)	1,052
介護高齢課	33	蚕糸園芸課	5	知事部局合計	1,917
保健予防課	12	畜産課	5	生涯学習課	1
障害政策課	119	計量検定所	2	文化財保護課	12
業務課	94	道路管理課	91	教育委員会合計	13
環境保全課	1	道路整備課	7	総計	1,930
廃棄物政策課	83	河川課	8		

表2  
平成二十二年度収集文書部局別冊数

部局名	冊数
総務部	90
企画部	102
生活文化部	41
健康福祉部	246
環境森林部	183
農政部	119
産業経済部	142
県土整備部	469
議会事務局	12
教委事務局	197
(管理委任解除)	193
合計	1,794



県庁での選別収集作業の様子

## 新たに収蔵された 古文書

〔寄贈・寄託された古文書〕

- ◎太田市成塚町・須永守家文書  
(平成二十三年四月以降)  
戦前の農民運動をリードした政治家須永好の関係史料約一五〇〇点。(寄託)
- ◎安中市安中・石井忠樹家文書  
安中藩士岡田家に伝来した武家文書及び明治以降の史料一七八点。(寄贈)

◎高崎市四ツ屋町・土屋喜英家文書  
土屋家伝来の近世文芸史料及び土屋氏の収集文書(本多夏彦氏より譲られた史料を含む)など約四〇〇点。(寄託)

◎吾妻郡東吾妻町・丸山正史家文書  
丸山家に伝来した近世文書及び丸山不二夫氏が収集した吾妻郡伊勢町、勢多郡猫村などの村方文書二九八点。(寄託)

◎吾妻郡東吾妻町・高橋あつ子家文書  
高橋家に伝来した近世村方文書など史料約一五〇点。(寄託)

◎群馬県・所澤潤氏収集文書  
所澤氏が収集した群馬県に関する明治期史料一点。(寄贈)

◎群馬県・高井浩氏関係文書  
群馬県庶民教育(寺子屋)調査報告書など関係史料約一七〇〇点。(寄贈)

◎前橋市朝日町・多加谷敏則家文書  
前橋藩士多加谷家に伝来した武家文書及び明治期の史料二四二点。(寄託)

◎前橋市文京町・赤井朗家文書  
会津藩士赤井家伝来文書及び近代以降前橋に居住した同家史料六〇点。(寄託)

◎伊勢崎市北千木町・菊池秀明家文書  
伊勢崎藩士菊池家に伝来した金銭覚帳など近世・明治期の史料二九二点。(寄託)

◎群馬県・山高幾之丞関係文書  
群馬県女子師範学校初代校長の山高氏に関する史料約三〇〇点。(寄贈)

## 新たに閲覧できる 古文書

(平成二十三年四月以降)

◎東京都杉並区善福寺・遠藤昌孝家文書  
速水堅曹の姉婿家梅関係文書(写真)と遠藤家文書。 二点(P〇七〇二)

◎茨川市伊香保町・深井正昭家文書  
深井家は江戸時代高崎藩大河内松平家に仕えた家。藩政に関わり作成された文書や日記・記録が多数含まれ、同家はもとより高崎藩を知る上で重要な文書群。 八三二点(P〇九〇二)

◎吾妻郡高山村・平形作太郎家文書  
平形家は中山宿本陣三家の一つで、名主と問屋を兼務。明治期以降は戸長・副戸長・地主総代人・中山村三等郵便局長。中山村の近世名主文書、明治から昭和期にかけての郵便業務、平形家私的文書から構成。近世の交通や明治期郵便制度を知る上で重要な文書群。 三三二点(P〇九〇四)

◎前橋市紅雲町・高橋健一氏収集文書  
東京オリンピック聖火リレー写真・前橋駅時刻表ほか。 七点(P〇四〇六)

◎前橋市五代町・船戸菅家文書  
典籍・明治期の芳賀村関係文書・地券。 一七点(P〇四〇八)

◎多野郡新町・斎藤宗平氏収集文書  
昭和四一年から平成五年までの『蚕糸絹

年鑑」。

◎前橋市野中町・井田安雄氏収集文書

戦前消防関係・県や市の広報など近現代資料。

◎前橋市文京町・中村卯三郎家文書

江戸時代前橋城の絵図(年不詳)。

◎前橋市筑井町・木村彦重家文書

昭和初期ブラジルに移民した木村彦重氏の私的資料。

◎群馬郡榛名町・小幡宰太郎家文書

修験関係資料・明治期の辞令ほか。

◎明治十年、十二年群馬県諸学校教則・学則等

県が制定した諸学校の規則(夜学・工女・女児ほか)。

◎前橋市富士見町・徳沢自治会文書

江戸時代から昭和までの村方文書。

.....

## 県庁特別展

震災から復興へ―資料に見る災害―

平成二十三年十二月十二日(月)から十六日(金)まで群馬県庁一階県民ホールにおいて県庁特別展を開催しました。

去る三月十一日に発生した東日本大震災をきっかけに、過去の教訓を改めて見直そうとする意識が高まっています。明治・昭

和三陸地震においては、その伝承の正しき、貞観地震からは生々しい津波の痕跡が再認識されました。

そこで今回は、群馬県の災害と復興の歴史を当館収蔵の古文書・絵図・公文書・写真資料などを中心に複製パネルで紹介しました。

「風水害と復興の歴史」のコーナーでは、江戸時代の元禄から寛保期の吾妻川沿いの集落の絵図三枚を展示しました。その絵図から、防波堤を超える洪水が発生し、元の高台に集落を造ったことが分かります。

「関東大震災に立ち向かった群馬県民」のコーナーでは、四万人以上の避難者を県内に受け入れたことを写真も交えてパネルで紹介しました。東京など被災地へ三千人を超える県民を救護班として派遣、食料や日用品を被災地に送ると共に、被災児童の受け入れ態勢を整えるなど、大震災に立ち向かった歴史を伝えました。「群馬県立文書館救済活動」のコーナーでは、宮城県女川町の津波被害にあった公文書を修復した当館の支援活動や東北各地の公文書の被災状況を報告いたしました。

展示開催中に七百九十人の方にご覧いただきました。また、見学者の方からは、「群馬県でも過去に大きな災害があったことにはまず驚きました。そして、それに対して人々が素早く対応したこと、とりわけ関東大震災に際しての対応には県民として

非常に感動しました。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。



展示会場の様子

### 平成二十三年度文書館ミニ企画展Ⅰ

#### 西上州の山村に生きた人々

～旧鬼石町譲原山田松雄家文書の世界～

#### 開催報告

「収蔵文書目録29集」発刊を機に、山田家の古文書(複製)と写真パネルを通じて西上州山村のくらしを紹介しました。展示構成と主な展示物は次の通り

甘楽郡譲原村：三波石案内をめぐる争

い・村絵図・明細帳など

山村のくらし：漆年貢・煙草・材木伐

採・焼畑耕作・鉄砲証文

満福寺・隠れ切支丹：木村利兵衛

近世譲原村の成立：伊奈忠次の検地

七月五日(火)～十一月十三日(日)ま

で(九月二十九日より延長)の一〇六日間

で、六二〇名の方に観覧いただきました。

### 平成二十三年度文書館ミニ企画展Ⅱ

#### 高崎藩士深井家文書の世界

～平成二十三年度新規公開資料展～

#### 開催報告

十二月の新規公開を期に平成二十四年一月六日(金)より展示を実施しています。松平(大河内)家臣深井家の系図と由緒、深井正路留書などの記録、旗指物絵形関連の資料、越後領分一ノ木戸関係資料などを展示し、武家のくらしや高崎藩の藩政について紹介しています。五月末日まで開催予定。

#### 「ぐんま史料研究講座

「よみがえる史料の世界Ⅲ」報告

今年度は近世・中世・民俗に関する三回の講座を実施しました。定員五十名のところ七十名の方が応募し、三回で合計百七十名が受講しました。

第一回 十二月十日(土)

藤井茂樹氏(群馬県文化財保護指導委員)

「一農民の記録が語る江戸後期の村と社

会く北毛山村の『家伝秘録』十五巻を読む」

**第二回 一月十四日(土)**

飯島義雄氏(群馬県立歴史博物館資料調査員)  
「灌漑用水遺構・女堀の再検討」  
地図・航空写真等を手引きに、巨大遺構を追う」

**第三回 一月二十八日(土)**

板橋春夫氏(國學院大学非常勤講師)  
「葬儀と赤飯」香典帳は語る」

最終年度の今年度は、多種多様な資料にもとづく歴史学へのアプローチをテーマに企画しました。オーソドックスな近世記録資料を使った第一回、古文書以外の資料から中世初期の女堀に迫った第二回、軽視されがちな香典帳を民俗学の立場から分析した第三回、といずれも講師の持ち味が発揮された講演でした。

**里帰りした古文書 前橋市関根町文化祭で寄託古文書を展示**

前橋市関根町では隔年開催の文化祭で当館に寄託している古文書(関根町自治会文書、平成三年寄託受入、総点数一四七〇点)を展示しています。文化祭は今年で七回目(平成二十三年度自治会長・小倉岳氏)を迎え、「みんなでつくる」誇れる文化 明るく輝く関根町」をテーマに一月二十一日(土)、二十二

日(日)の二日間、関根町公民館を会場に開催されました。



古文書の展示

関根は江戸時代から勢多郡関根村として明治二十二年まで続き、その後は南橋村、前橋市の一部として現在に至っています。その過程で作成されたのが本文書群です。江戸時代をはじめ、明治・大正・昭和期の村政・用水・教育などに関する史料です(大型絵図などを含む)。これらの史料は関根地域の歴史を知る上で非常に貴重なものです。

東日本震災後に「絆」という言葉が再認識されましたが「地域の絆」を育むためにも先人の残した史料を活用することはとても大切なことではないでしょうか。こうした機会をとおしてより多くの方々に地元の歴史を知るきっかけになっていたければ幸いです。

**案内板**

◎「群馬県立文書館収蔵文書目録」29集の発行

本目録は、多野郡鬼石町譲原の山田松雄家文書を収録しております。総数四千字を超える西上州を代表する文書群の一つです。山田家が譲原村名主を務めた関係から、江戸時代の村方文書が多数残され、神流川流域の村のくらしを伝える貴重な史料群です。ぜひご活用下さい。

**事業報告**

【行政文書の受任・引継収集】(於県庁)

6・29～7・8 (知事部局)

7・15 (教育委員会)

【古文書の収集・整理】年間(随時)

【古文書入門講座】

6・11～7・9 (5回連続)

【長期古文書講座】

7・23～11・12 (14回連続)

【ぐんま史料研究講座】

12・10～1・28 (3回連続)

【インターネット古文書講座】

4月～3月(12回) ホームページで掲載

【夏休み!文書館子ども探検隊】

8・4日 実施

【レファレンス相談】

毎月第2・第4水曜日(午後)

【文書調査員会議】 5・26 開催

【文書館運営協議会】 7・19 開催

【群馬県市町村公文書等

保存活用連絡協議会】

8・2 総会 2・21 研修会

【全国歴史資料保存利用機関

連絡協議会全国大会】

10・27～28 群馬大会開催

【県庁特別展】

12・12～16 「震災から復興へ

資料に見る災害」開催



**案内図**

発行 行/群馬県立文書館  
http://www.archives.pref.gunma.jp/  
〒371-0801 前橋市文京町三二七二一六  
印刷/松本印刷工業株式会社  
題字/岡庭征人書